

Popoki



Newsletter

No.1562018.8.25

ronniandpopoki(at)gmail.com

<http://popoki.cruisejapan.com>



もうすぐ9月なのに、神戸はまだ暑いです。
ポーポキはスイカを食べて暑さを飛ばします。一緒にいかが？

Popoki's Hot News!

NEW!

こんにちは！とうわにゃんです？ ポーポキの最も小さい新ともだちです。
よろしくお願いします！



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのレベッカにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。「ヨガをしながら自分が穏やかな海に浮かんでいる昆布になったと想像して、平和な気分になりました。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com)!

7月14日、ろにゃん先生の授業である Issues in Peace and Development 1 (IPD1)にて、毎年恒例の大阪・釜ヶ崎へフィールドトリップに参りました。朝9時ごろから夜21時まで、長丁場となりましたが、22年間関西に住んでいたのに知らなかったことを、肌身で学ぶことができました。午前中の覚醒剤撲滅パレードの後、私たちは「こどもの里」というNPO施設へお邪魔致しました。事前にゼミの齋藤規乃さんと共に、子どもたちと私たち学生が交流できるプログラムを計画しました。

事前にろにゃん先生に「里の子どもたち、めちゃくちゃパワフルだよ」とお聞きしていたのですが、まさにその通りでした。ゲームのためのカードを配っている最中、子どもたちは走り回り飛び蹴りをして…。計画していたプログラムが果たしてできるのだろうかという焦りを感じてしまいました。

そのプログラムとは、泣いているポーポキをみんなで元気にしてあげよう、というものです。ポーポキは先日大阪で起きた地震により、家を失ってしまいました。紙とクレヨンで配ると、みんなすぐ様々な物を書いてくれました！ 飴を描いているグループ、ポーポキの友達を描いたグループ、虹を描いたグループ、ポーポキ優しい言葉をかけてあげたグループ。子どもって何て優しいんだろう。そう思った瞬間でした。また最初はツンツンしていた子も、最後には愛のある飛び蹴りをしてくれました(笑) また誰かを思う気持ちに言語の壁はないということを実感しました。私たち学生の中には様々な国からの留学生がいます。最初焦ってしまったせいで留学生と日本人を同じグループに混ぜることができず、留学生だけのグループもできてしまいました。しかしポーポキを助けたいという気持ちを絵にすることで、言葉の壁を超えたコミュニケーションができていたのではないかと思います。今回のプログラムを計画させて頂いたことは私にとって本当に貴重な経験となりました。この機会を下さったろにゃん先生、サポートしてくれたクラスメイト、そして何よりもこどもの里の皆さまに感謝をお伝えしたいと思います。このプログラムがこれからも続くことを願っております。



「こどもの里」報告

きのにゃん

2018年7月14日に、釜ヶ崎フィールドワークのプログラムとして「こどもの里」を訪れました。釜ヶ崎は昔から、日雇い労働者や野宿者の町として知られています。この街では、子どもたちの問題に焦点が当てられたことはなく、子どもたちの数が少なくなってきたという話を伺いました。今日は、そうした状況のなかで、子どもたちとこどもの里の活動について感じたことをシェアしたいと思います。

今回、子どもたちとの交流を企画するにあたり、どうすればみんなに楽しんでもらえるだろう？と試行錯誤しましたが、当日は子どもたちのたくさんの笑顔を見ることが出来て安心しました。私たち学生と子どもたちは、「地震で泣いているポーポキを笑顔にするために、何ができる？何が必要？」というテーマを一緒に考え、それを絵や言葉で表現しました。食べ物、風船、家、ポーポキの友だち、ハグなど、子どもたちの思いやりが溢れたカラフルな絵が完成しました！



私はこの活動を通して、平和とは、「安心できること」だと感じました。今年には既に、6月に大阪北部地震、7月に西日本豪雨といった災害を立て続けに経験し、身の危険や恐怖を感じる人も少なくなかったと思います。そういう時に、当たり前にあるものは、決していつもあるものではない、と気づくものです。

「安心」も、その一つなのではないでしょうか？

みんなが「安心できる場所」、「帰る場所」をつくることは、

こどもの里や釜ヶ崎の街が取り組ん

でいることでもあります。「安心できる場所」は、人との繋がりの中で生まれるものであり、みんなで作るもの。人と人との繋がりをつくる子どもたちやこどもの里の活動は、そうした「平和」の重要な担い手だと思います。

子どもたちとの交流の機会を与えてくださったこどもの里、ろにゃん先生に感謝したいです。子どもたちには、自分たちの可能性というのを感じて過ごしてほしいと思います。私たち学生にとっても、自分を振り返る良い機会になりました。ありがとうございました！

「ねこのポーポキと一緒に平和をつくりましょう」

しやりにゃん

独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA 関西）にて第15回の「多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」が2018年8月6日（月）～7日（火）に開催されました。2日間のセミナーでは基調講演と数多くのワークショップが開かれ、沢山の教職員や学校関係者と学生たちが主体的に国際理解教育や開発教育について学びました。

ポーポキも神戸大学大学院国際協力研究科のロニー・アレキサンダー教授と「ねこのポーポキと一緒に平和をつくりましょう」のワークショップの指導者として参加してくれました。約25人以上がポーポキのワークショップに参加し、ポーポキの簡単なポガエクササイズと手作り楽器を通じて、楽しくアイスブレイクや自己紹介をすることができました。



ポーポキは参加者の想像豊かな感覚を活かし、平和の意味やその実現について、様々なロールプレイやお絵かきをしました。また、社会の見えない暴力の問題や解決方法を真剣に考える機会があり、とても有意義なワークショップとなりました。アレキサンダー先生とポーポキのご指導のおかげで、たくさんのお話を学ぶことが出来ました。本当にありがとうございました！



ポーポキと仲間と一緒にすごした 8 月 6 日

ろにゃん

広島に原爆が投下された 8 月 6 日に毎年、ポーポキと仲間が集まり、核問題について考えたり核のない世界への決意を再確認したりします。東日本大震災や福島第一原発事故以来、この一環としてアメリカのピッツバーグ市を拠点とする反核団体 **Remembering Hiroshima Imagining Peace** のメンバーとスカイプで核問題について話し合いを持ちます。ここ数年はさらにグアムの活動家、特にグアム大学のマイケルにゃんも参加して、3 か所で話をします。

第一部：影をつくる



(写真 ヒロシマ <http://i.imgur.com/8MSsVrW.jpg>)

(写真：神戸大学、ろにゃん)

もしも、あなたがコンクリートの階段に座っているときに上空で核爆弾が爆発していたら、左上の写真のようになるかもしれない。つまり、影しか残りません。今にでも私たちの上空で爆発していたら、私たちはどんな形になるのでしょうか。地面に互いの身体をなぞりながら、世界が一瞬にして想像がつかないものに変貌することを想像し、話し合ったりしました。

第二部：ダイイン

原爆が爆発した瞬間の 8:15 に「死にました」。73 年前の広島は、今日のように暑かったのかしら。ひどいやけどをしても、救急物資も薬も水も冷房もなかったら…。広島と長崎で亡くなった方の正確な人数はわからない。広島では 15 万人以内、長崎では 8 万人も？現在原爆被ばく者総数は 15 万 4859 人（昨年比べて 9762 人減）。平均年齢は 82.06 歳となりました (<https://www.yomiuri.co.jp/osaka/news/20180806-OYO1T50010.html>)。今にでも、証言を聞きたい？次のサイトで聞くことができます。国立広島平和祈念館 <https://www.hiro-tsuitokenenkan.go.jp/index.php>

第 3 部：スカイプ

神戸からはいしのにゃん、まさとにゃん、レベッカにゃんとろにゃん。ピッツバークの仲間は『この世界の片隅に』(英語版)を観終わったところでしたので、最初は映画の感想を共有しました。アニメーションがとても良かった、感動的だったなどのコメントがありました。レベッカにゃんは映画の背景やマンガの話、日本でかなりたくさんの方が観たなどの話をし

てくれました。ろにゃんは原爆映画は通常、ケガや破壊を具体的に見せるけれど、この映画はそういうのをむしろ避けているところが高い評価の一つのカギだと言った。学校で原爆を取り上げたときに恐怖を覚え、圧倒された人は少なくないので、このような映画なら観てもいいと考えるかもしれません。いしのにゃんは、広島・長崎に対する関心は住んでいる地域によって異なると指摘し、東京や東日本など、原爆を受けた二つの町から遠くに住んでいれば、関心が薄いかもしれない。まさとにゃんはちょうど2年間働いていたマラウイから帰ってきたところ。マラウイはとても貧しい国で多くの人は学校にいけない。それなので、日本から来たと言ったら、周囲の人はすぐに「ヒロシマ」と言ったりしたそうです。出身は長崎の近くなのに、彼らの質問に十分に答えることができない自分を発見したことを共有してくれました。

マイケルにゃんはグアムの状況について説明してくれました。グアムは全面積の約29%は米軍事基地のためにとられ、非常に軍事化された島です。学校教育はアメリカとほぼ同様で、学校で子どもたちは軍事化や核兵器は必要だと学びます。しかし、軍関係の事故が多いや、島はいつも脅威にさらされていること、軍が使っていたオレンジ剤などの有害物質による汚染が多いなどを学びません。

北朝鮮についての質問に対して、マイケルにゃんは、グアムは太平洋地域におけるアメリカの「槍の先」と呼ばれていると説明しました。槍は戦士そのものではなく、戦士が自らを守るためのものであって、戦士が残れば槍がなくなっても良いものです。グアムでは、「アメリカを守るためにグアムが必要」というけれど、その場合、グアムは「アメリカ」に入っているかどうかはわからない、と言っていました。日本では、政府が「北朝鮮の脅威」を理由に憲法の非戦主義を変えようとし、軍事化を進めている。アメリカ同様、日本は核兵器禁止条約に反対しています。広島・長崎の原子爆弾経験にも関わらず、日本政府はアメリカの軍事戦略を支持し、積極的にアメリカの核の傘に入っています。もちろん多くの人は核兵器に疑問を抱き、とくに沖縄では米軍基地に反対する人が多い。レベッカにゃんは最近、韓国の済州島から帰ってきました。韓国では最近、北朝鮮と対話する努力が一層強くなり、希望を抱いている人が多いと報告し、東アジアの緊張緩和に文在寅の功績を強調しました。

時間がすぐに無くなってしまいました。最後に **Remembering Hiroshima Imagining Peace** のフェイスブックページで話を続けるという提案で終わりました。

ポーポキの仲間のコメント

「8月6日について、日本の中でも教育や知る・考える機会が減っているなか、同日同時間帯にグアム、アメリカのみなさんと一緒に考え、貴重な時間でした。現代グアムのおかれている状況についてや、アジアの中での互いのかかわりなど、歴史はすべて今につながっているんだなと思われました。」〈いしのにゃん〉

「8月6日にダイインに参加し、初めて黙とうではなく、空を眺めました。下を向くのではなく、上を見ることで、気持ち的に前を向いて、平和について考える必要があると考えました。また、スカイプでグアムとアメリカと話した際に日本では何を学んだのか問われ、うまく返答できませんでした。もっと自分事化して、戦争や平和について考えたいと思う、良いきっかけになりました。」〈まさとにゃん〉

「ありがとうございました。ヒロシマのことを風化させないことがとても大事で、三者によるスカイプはとても良い機会でした。マイケルにゃんによるグアムにおける軍事化の説明はとてもわかりやすく、私たちに今日の核状況を思い出させました。沖縄、済州島、グアム…。つながりや交差するところについて今後も対話したいと思います。Remembering Hiroshima Imagining Peace、ありがとうございます。今後も話し続けましょう。」〈レベッカにゃん〉

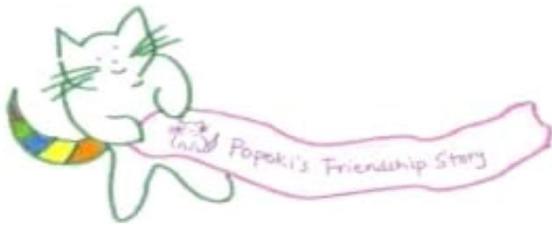
(写真：ポーポキの仲間がスカイプ中)

(写真：ピッツバーグの様子、City of Asylum 提供)



<https://www.yomiuri.co.jp/osaka/news/20180806-OYO1T50010.html>





Popoki's Interview

キヨにゃん
お相手：道又衛先生

*このインタビューは前回に続いて、3月17日にパネリストとして参加された道又衛先生のお話です。写真は、先生のパワーポイントに使われたものです。

絵と絵本と医療と災害の持ち寄りパーティー(ぽっとらっく)にて
日付：2018/03/17(土) 場所：神戸市灘区民ホール

道又先生についてご紹介させていただきます。

道又先生は、長年、大槌町で内科・小児科医をされています。そして、2018年3月17日(土)「絵と絵本と医療と災害の持ち寄りパーティー」が灘区民ホールで開催されました。その中のシンポジウム「東日本大震災から考える安全安心」で道又衛先生が「3/11の津波襲来時の我が家の対応とその後について」という演題でお話されました。

道又先生が講演して下さった内容をインタビュー記事とさせていただきます。

ここからは、原稿にそった内容になっています。

自宅玄関正面



夜になって、あちこちで火の手が上がり、私たちの家の周辺でも火の手が上がっておりました。家の中も何となく石油の臭いがしており、燃え移っては大変と思い、水が引けてくるのを待って2階からの脱出を図りました。階段は真っ暗で又がれきだらけでしたので、ベランダから降りることにしました。妻がシーツを何枚か結んで長くしたものを使うことになりましたが、私は右半身のマヒがあり、握力も10kgもないほどでしたのでひも状のシーツをつかんでぶら下がることもできませんでした。シーツに結び目を作ることと私の腰にもう1枚のシーツを巻き付けて、その結び目に腰のシーツが引っかかることを利用して少しずつ降りられるように工夫しまして、それが功を奏して地面に降りることが出来ました。ただ駐車場はまだ水がいっぱい道路の方へ歩いていくうちに胸のあたりまで水位がありました。火災のない方へ逃げることは断念しました。1階の玄関部分で朝まで過ごすことになりましたが、水にぬれており風よけの壁もあまりないところで、みぞれ交じりの天候の中で一晩過ごしました。低体温で体が震えていましたが、妻が持ってきたお菓子用のラム酒で身体を温めました。ただしアルコールは一時的に身体を温めますがその後の利尿作用で温かい体液が出ていくため、又身体が冷えてしまいます。酒を飲まない妻と姉は比較的元気でした。

翌日は、妻や姉が階段のがれきを片付けてくれて階段を使って2階へ上がりました。この時も冷えて身体の動かない私を、妻が引き上げくれました。妻はこの時にすでにかかとの骨を骨折していたようですが私を引き上げる際に悪化させてしまいました。これが私たちのサバイバルでしたが、障害者を助けるためにはいろいろな工夫と介助者の苦勞がどうしても必要だと痛感しました。

道又医院自宅玄関側



津波前の往診先



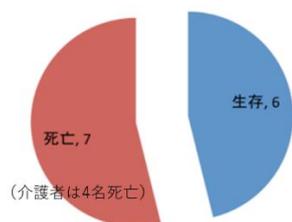
ここから後段の話となります。震災前には寝たきりの人達を中心にして10数件往診診療を行っておりました。山から写した写真を見ると一目瞭然でほとんど海から近いところに住んでいたことがわかります。大震災の前にチリ地震津波がありました。この時はほんの数10センチ程度の津波でした。地震発生から半日以上たってからの津波でしたので余裕があり、寝たきりの人達も社会福祉協議会や施設の人達が高台へ避難させることが出来ました。

津波後の大槌町



大震災後の写真です。ほとんど街並みが失われております。

往診先の被災状況



私の往診先の被災状況です。13軒の往診がありましたが、そのうちの7名の方が犠牲となっております。介助者も4名が亡くなっております。避難できた患者さんは車いすを使うことが出来る方達と高台に住んでいる方達でした。チリ地震の津波の後の往診で介助している家族の方達には、患者さんのほとんどが意識のない人たちでしたから、介助者は見捨ててもいいから逃げなさいと話してきましたが、やはり出来なかったのです。4名の方が亡くなりました。又特殊な例ですが津波の直接の被害がなかったのですが、停電のための悲劇もありました。電動ベッドを使用していた寝たきりの患者です。山の方に住んでいた方です。昼食後だったためベッドを起こして座ったままでしたため、停電によりベッドが動かなくなり、知的障害を持っている介助者もどうすることもできなかったようで、身体がおり曲がった状態で津波後2日ほどたってから保健師が巡回した時に亡くなっているのを見つけた事例です。

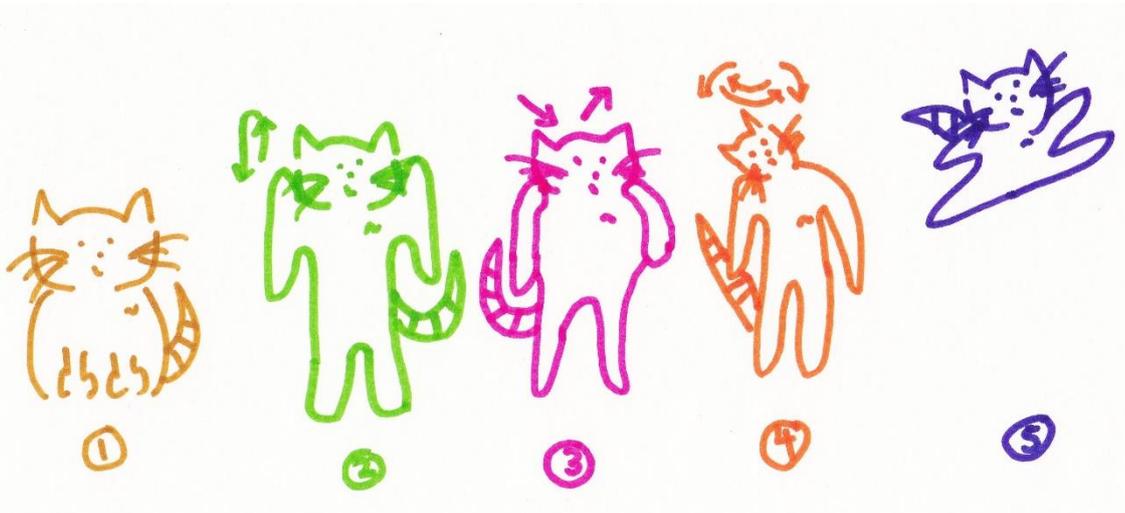
道又先生、ありがとうございました！



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 123

今月のテーマは、リラックス！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
2. では、立ちましょう。肩を耳まで持ち上げて5秒ほどキープ。そして、ドンと肩をおとします。
3. 次は、肩としっぽを回します。ゆっくり前へ。そして今度はうしろへ。
4. 最後は首のストレッチ。頭をゆっくり右の肩へおろす。ゆっくり中央に戻して、頭をあげる。今度は、左の肩へ。
5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



- 次回のポー会：9月27日 19:00～ 灘薬剤師会 (JR六甲道 すぐ)
- 8.22 ポーポキ@神戸大学男女共同参画推進室 サマースクール！
 - 8.25 ろにゃんとポーポキ@日本管理看護学会 「セクシュアリティを考える」
 - 9.10-21 ポーポキはユネスコフェアサマープログラム@ガジャマダ大学に参加！
 - 10.20 午後。ポーポキと一緒に平和と健康を考えるWS@兵庫医療大学
 - 12月 ポー年会！
 - 1月13日 ポーポキと安全・安心を考えるイベント(予定)
 - 2月9日～ ポーポキ in 大槻町！(予定)

ポーポキの友だちから

新しい絵本：中條聖子著、ロニー・アレキサンダー訳『森のかんづめ』（日英版）エピック
2017年

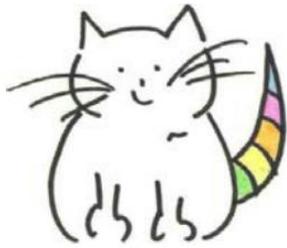
Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー :

<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしまど 52」『神戸青年・Kobe YMCA News』 No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇宙賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8 10





私にとってポーポキ

Raini nyan (Nuzula Anggeraini)

時計は刻々と変わり、時間は本当に速く過ぎている。私はほぼ1年間日本に住んでいて、今年9月末に神戸大学のGSICSを卒業して、インドネシアに帰ることになる。私がここにいる間にワクワクするようなことを沢山経験できた。さまざまな国からの新しい友だちに出会ったおかげで、新しい発見がたくさんあり、多くのことを学ぶことができました。

その新しい友人の一人はポーポキ。ポーポキはいつも優しく全てのことを共有して、特に災害が起こった時の経験とその時の彼の気持ちのことを教えてくれる。ポーポキの話から、自分たちの周りに起こっていることに気をかける必要があるということを知った。被災者を支援するのにどうすれば良いか、あるいは災害の危険を減らすために私たちにできることはなにかなどを考える必要がある。

私が住んでいるマルク地方を含めて、インドネシアも災害が起こりやすい。しかし、ほとんどの人たちは自然災害が起こる前にどんな準備をし、災害が起こっている最中にどのように対応し、そして災害のあとにどうすれば良いかは知らないと思う。いつか、ポーポキが私のところに来て、マルクの市民たちに話を聞かせてほしいと思う。なぜなら、人々はポーポキの話から学び、災害が起こっても安心して生活ができるようになると思うからだ。



← ポーポキとの私の最初の出会い

ご協力お願いいたします！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動

をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10か国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なされたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!